

1 . 件名：日本原燃(株)再処理施設、MOX 施設及び廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の変更認可申請等に関する面談

2 . 日時：令和3年8月6日(金) 11時00分～11時55分

3 . 場所：原子力規制庁 原子力規制部長室

4 . 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 市村原子力規制部長

審査G核燃料施設審査部門 長谷川安全規制管理官、古作企画調査官、森野安全審査専門職

日本原燃(株) 宮越常務執行役員(再処理事業部長)

5 . 要旨

○日本原燃(株)から、同社の再処理施設、MOX 施設及び廃棄物管理施設に係る設計及び工事の計画の変更認可(以下「設工認」という。)申請等に係る対応状況について、概ね以下の説明があった。

- ・設工認申請に係る審査に対応するための体制については、電力会社の支援を受け、各社の審査対応経験者等を要所に配置するなど、各分野で適切な対応が行えるように強化してきている。
- ・埋込金物の健全性については、工事記録のみしかないものについては、現品調査する意向であるが、一部に調査ができない箇所が残る見込みである。
- ・設工認申請に係る審査の現状を踏まえると、廃棄物管理施設の工事期間を変更する必要があると考えており、許可申請書に係る工事計画の変更の届出を行う予定である。

○原子力規制庁から、日本原燃(株)に対して以下の点を伝えた。

- ・体制の改善・強化についてはこれまで何度も説明を受けているが、審査の現状においては具体的な効果が見えていない。
- ・自ら定めたスケジュールに固執し、社内で十分確認された資料等が提出されているとは考えられない。結果して議論が収束しない状況が繰り返されている。まずは個々の論点をどのように解決していくのか、そのロジックを整理し、その上で実現可能なスケジュール等を示してもらいたい。
- ・審査の対応は、要員を配置し体制を構築すれば進むものではなく、上位者による作業への随時適切な指示や指導監督、状況の確認、適切なコミュニケーションなど、その体制を有機的に機能させるための工夫やマネジメントが必要。組織として適切な準備、議論、確認を行い、審査会合において、申請者としての考え方、方針等をしっかり説明できるようにしてもらいたい。
- ・埋込金物の現品調査については、7月26日の審査会合において、技術的に実

施できない箇所はその理由と当該箇所の評価内容を整理して検査対応をするよう伝えており、しかるべく対応頂きたい。

- ・廃棄物管理施設の工事計画については、会社として意思決定がなされた場合には、しかるべく手続きを実施して頂きたい。

6. 提出資料：なし

以 上